

第18回「海の香りのする詩」

市内小学生の部

大賞

イカ釣り

安楽島小学校六年 和田

翔天^{しやま}

ぼくのいとこの兄ちゃんは

イカ釣り名人だ

夕ごはんをちゃっちゃと食べて

釣りざおを持って、自転車で出発

大谷志トンネルをぬけて、

提防の先っちょまで行った

いい場所がとれた

今日もいっぱい釣れるといいな

ぎじえを付けた釣り糸を投げる

ドキドキ、ワクワク、釣れるかな

兄ちゃんが、さおを上下にふって

ぎじえをゆらす

イカが寄ってきた

イカはぎじえに足を巻きつける

ヤッター!!

イカは逃げようとして糸をひっぱった
でも針にひっかかって逃げられない

海をテーマにした「海の香りのする詩」に市内から656点、市外（県内）から255点の応募があり、受賞作品が決定しましたので紹介します。

教育委員会生涯学習課

☎ 25 12268

兄ちゃんが釣り上げる

めっちゃでかい!!

巨大イカが逆さまになって上がってきた

兄ちゃんもぼくも大興奮

イカをしめる

兄ちゃんがチョップをすると、

イカはスミをはいた

兄ちゃんの白いTシャツが、黒の水玉もよう

になった

「わっ、ばあーい。」

と兄ちゃんがさげんだ

でも、兄ちゃんはうれしそうだった

いとこの兄ちゃんの様子が、見事に描かれ、自分もいっしょになっている心の動き、兄ちゃんへの思いがよく表現されています。（選考委員長：松田健氏評）
背景のイラストも和田さんに描いていただきました。

市内中学生の部 大賞

「恋文く大好きな君へ」木下穂乃香（鳥羽東中3年）

落ち込んだ時

いつもそばにいてくれたのは君でした
楽しい時

いつもそばにいてくれたのも君でした
悲しい時

自然と君を求めています

砂が波にさらわれていくように

私の心もさらわれていく…

心に穴が空いた時

私の心を満たしてくれるのは君でした

悲しみの涙は

君に映ってキラキラと輝きました

君から吹く潮風は

私の心を優しく包みこんでくれました

嬉しい時

満面の笑みで駆けていったのは

君のもとでした

ほこらしげに自慢すると

「よかったね」「がんばったね」と

ささやいてくれました

君は頬を真っ赤に染めて

夜空の花火を映して祝福してくれました

君はいつも私の傍にいてくれました

泣いたり 笑ったり 怒ったり…

同じ時を過ごしてきました

どうかこれからもよろしくお願いします

私は君のことが大好きです

その他の受賞作品は次のとおりです。

市内小学生の部

伊良子清白賞 「かますと

ぼく」瀬崎晴斗（加茂小6年）

入賞 「私のお手伝い」齋

藤陽奈子（桃取小5年）、

「おいげののりは日本一」

山下稀平（答志小6年）、

「石の裏のトコブシ」中山

俊太郎（弘道小6年）

奨励賞 「海とわたしの内

緒話」河村たから（加茂小

6年）、「じいちゃんは漁

師」下村崇斗（弘道小6年）

市内中学生の部

伊良子清白賞 「神島」木

下未帆（加茂中2年）

入賞 「島に住む家族」小

寺敢（鳥羽東中3年）、

「海での思い出」寺本明日

香（加茂中3年）、「海の上の橋」樋口鈴奈（鳥羽東

中1年）

奨励賞 「海の花火」尾上

優衣（加茂中1年）、「少女時代」山本あさひ（加茂

中3年）

みなさんの作品は、受賞

作品集として編集し配布す

る予定です。

※敬称略



『自らの人権意識を見つめ直し、様々な学校の仲間と人権問題について考える』鳥羽市小・中学校人権フォーラム開催』

12月1日に市内の9小学校、4日には市内の5中学校の代表児童・生徒が鳥羽商工会議所のかもめホールに集まり、人権フォーラムが開催され、活発な意見交流がされました。

「人権の尊重」という問題意識を持ち、子どもたちが学校を越え、自分の願いや思いを主体的に発表しあうことで、豊かな出会いと発見の場を作るとともに、互いに刺激し合い、各学校での広がりができるようにするための機会として行われています。

他校の児童・生徒との話し合いや意見交流から、部落差

別をはじめとするあらゆる人権問題への認識を深め、自分たちの人権感覚を磨き、生活を良くしていくこうとする姿勢を育てたいと願っています。学校全体で自分たちの暮らしや生い立ちを十分に知り合える実践を続け、その中で生まれた葛藤や悩みや思いをフォーラムで出し合っています。

今年も各学校で取り組まれた人権学習、自らの体験を基にした問題提起、噂や偏見に惑わされることなく正しいことを正しく知ることの大切さなど、人権に関わる児童・生徒の作文の発表を中心に意見交流が行われました。この交流をもとに、さらに学校・学年・学級での還流、家庭での話し合いなどの地道な活動の上に人権学習の広がり深まりを期待しています。

そして、市内の全学校の児童・生徒が人権問題を考えることを毎年重ねることで、将来の鳥羽市民の「豊かな人権感覚あふれる街づくりへ」との願いを持って取り組んでいます。

